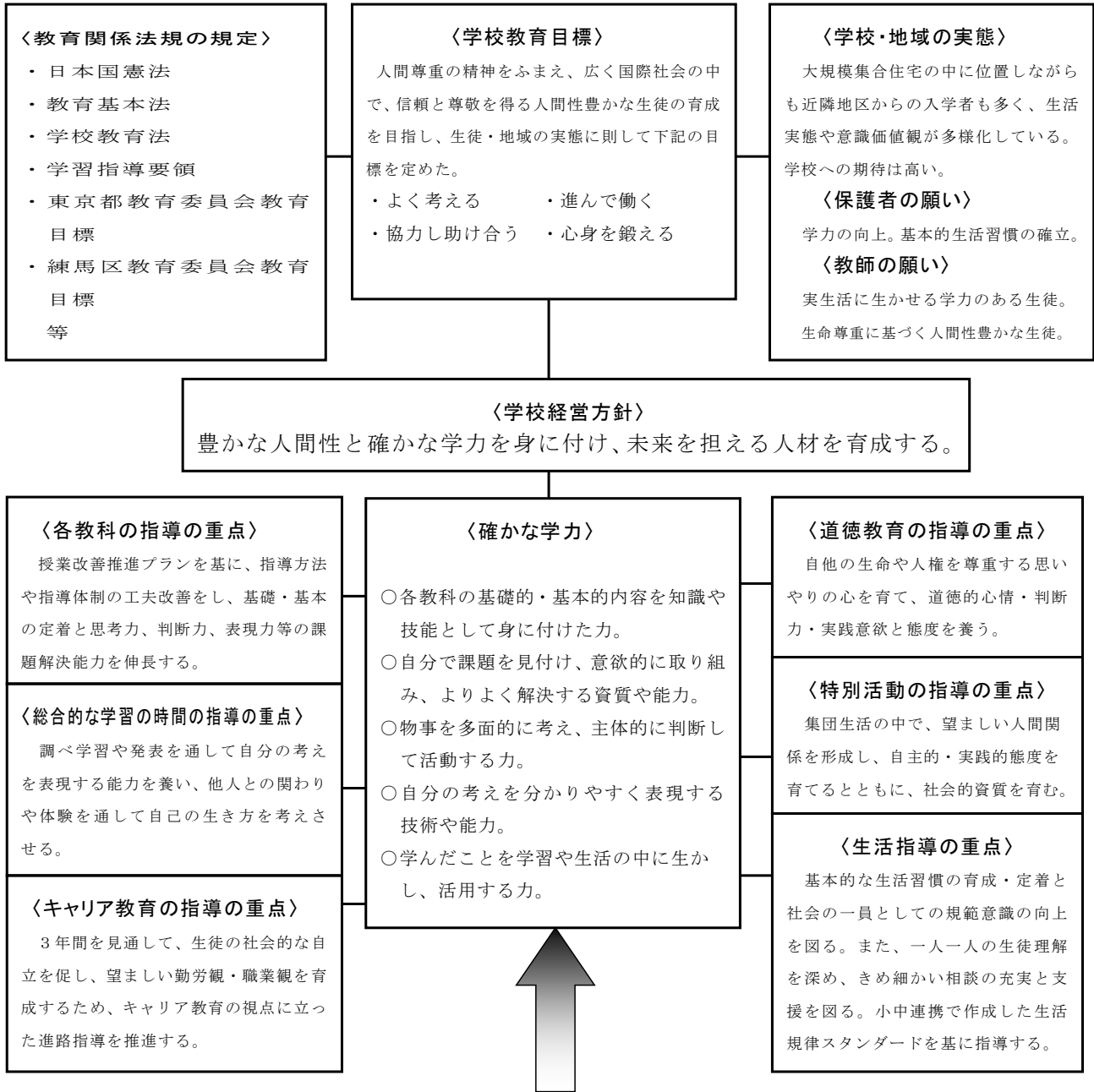


令和4年度 学力向上を図るための全体計画

練馬区立光が丘第二中学校



本校の授業改善に向けた視点				
指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
① 定期考査の分析をする。 ② 観点別学習状況の評価を分析する。 ③ 上記資料による学習状況・学習の実態を把握する。 ④ 分析結果を反映させた授業改善を実施する。授業のねらいや目標を明確にする。必要に応じて学習補充教室を実施する。 ⑤ 新しい3観点を踏まえた学習内容を設定する。	① 数学科における習熟度別少人数授業の実施により、習熟の程度に応じた授業を展開し、生徒の能力や適性に応じた補充・発展の学習を進める。 ② 英語科における少人数授業の実施により、生徒のコミュニケーション能力や学び合い、適性に応じた補充・発展の学習を進める。ALTとのTT授業により学習効果を高める。	① 人との関わりを大切にしたい研究授業を通し、学力向上のための指導法を工夫する。 ② 課題改善カリキュラムを作成し、実践する。 ③ 学校独自の「学力向上を図るための指導法の工夫」を作成し、実践する。 ④ 研修会で特別の教科 道徳、特別活動、特別支援教育の分科会を設定し、小中一貫教育の視点から授業改善を図る。	① 毎日の授業における観点別学習状況把握のための資料収集を行う。 ② 生徒による自己評価表（個人内評価と反省）の導入とその充実を図る。 ③ 新学習指導要領に則った丁寧かつ適切な評価評定の在り方についての研修と工夫を行う。	① 学校公開日や学校公開週間を通して保護者・地域との連携を深める。 ② 外部アンケートを通し、地域の方と学校が一体となった教育を推進する。